

マテリアリティのリスクと機会、KGIと主なKPI,2024年度自己評価

2025年度からの新中期経営計画にあたり、社会環境課題、外部環境も日々変化していることを受け、再度マテリアリティの見直しを実施しましたが、マテリアリティは変更しないこととしました。一方、KPIの達成状況はマテリアリティによって異なることから、いくつかのKPIは見直し或いは新たなKPIを追加設定しています。

| マテリアリティ | リスクと機会 (○機会/●リスク) | KGI (2030年のありたい姿) | 主なKPI | ターゲット | 2024年度(前中期経営計画結果) | | | |
|---------|----------------------|--|--|--|--|--------------------------|--------------------------|-------|
| | | | | | ターゲット | 実績 | 自己評価 | |
| 環境価値の創造 | ① 気候変動問題への対応 | ○ 天然水産物の漁獲量減少を補う養殖水産物の販売機会の拡大 ● 気候変動による原材料の調達不全リスクの増大 | 2050年カーボンニュートラルを目指し、脱炭素や気候変動に対して業界における主導的地位を確立している | ● CO ₂ 排出量削減率(2017年比)(国内G ^{※1}) | 2030年度目標:30%以上 2027年度目標:20%以上 | 10%以上 | 13.3% | ★★★☆☆ |
| | | | ● CO ₂ 排出量削減目標(海外G ^{※1}) | 2030年度目標:— 2027年度目標:目標設定 | — | — | — | |
| | | | ● Scope3目標設定(国内G) | 2030年度目標:— 2027年度目標:目標設定 | — | — | — | |
| | ② 循環型社会実現への貢献 | ○ 容器包装プラスチック使用量削減、フードロス削減によるコスト削減 ● 容器包装プラスチックの環境配慮型素材切替えによるコスト増加 | 効率的な資源利用によるサーキュラーエコノミーがグループ内に浸透し、実践している | ● 容器包装プラスチック使用量削減(2020年比)(MN ^{※1}) | 2030年度目標:30%以上 2027年度目標:20%以上 | 10%以上 | 7.0% | ★★★☆☆ |
| | | | | ● フードロス削減(2020年比)(国内G) | 2030年度目標:80%以上(前中計から上方修正) 2027年度目標:70%以上(前中計から上方修正) | 20%以上 | 64.9% | ★★★★★ |
| | | | | ● 生産工場におけるプラスチック使用量削減目標設定(国内G) | 2030年度目標:— 2027年度目標:目標設定(2025年) | — | — | — |
| | | | | ● 水資源のリスクと機会、対応策の分析評価、対応策検討 | 2030年度目標:— 2027年度目標:リスク・機会・対応策の分析 | — | — | — |
| | ③ 海洋プラスチック問題への取組み | ○ 海洋プラスチック問題へ積極的に取り組む企業としてイメージ向上 ● 海洋に流出しづらい漁具への切替えによるコスト増加 | 自社を含むサプライチェーン上で海洋へのプラスチック排出ゼロを実践している | ● サプライヤー向け漁具管理ガイドラインの策定と運用啓発(MN) | 2030年度目標:— 2027年度目標:ガイドライン策定・運用啓発 | グループ内ガイドライン策定と運用 | グループ内ガイドライン策定と運用済 | ★★★☆☆ |
| | | | | ● 社外ステークホルダーとのクリーンアップ活動の共同開催(国内G) | 2030年度目標:33回以上/年 2027年度目標:21回以上/年 | 海岸クリーンアップへの従業員累計参加率10%以上 | 海岸クリーンアップへの従業員累計参加率28.2% | ★★★★☆ |
| | ④ 生物多様性と生態系の保全 | ○ 持続可能な水産資源の提供による企業価値向上 ● 認証取得・維持にかかるコストの上昇 | 取扱水産資源について、資源枯渇リスクがないことを確認している | ● 取扱水産資源の資源状態確認率、評価不明魚種の取扱方針策定(G全体) | 2030年度目標:取扱水産資源の資源状態確認率100% 2027年度目標:評価不明魚種の取扱方針策定 | — | 取扱水産資源の資源状態確認率81.8% | ★★★☆☆ |
| | | | | ● 電子トレーサビリティ方法の確立 | 2030年度目標:— 2027年度目標:一部魚種で運用開始 | — | — | — |
| | | | | ● TNFDフレームワークにもとづく生物多様性リスク評価実施(国内G) | 2030年度目標:— 2027年度目標:TNFDにもとづくシナリオ分析拡大実施 | 生物多様性リスク評価実施 | 一部事業で生物多様性リスク評価実施済 | ★★★☆☆ |
| | | | ● 養殖場の認証レベル管理の実施(国内G) | 2030年度目標:— 2027年度目標:グループ内全養殖場で管理体制の構築 | 全養殖場の認証レベル管理の実施 | 全養殖場の認証レベル管理の開始済 | ★★★☆☆ | |

※1 対象組織を略称で記載MN=マルハニチロ㈱、国内G=国内グループ連結会社、G全体=グローバル連結会社、海外G=海外グループ連結会社

前中期計画から修正を加えた部分

★★★★★2030年度KPI達成済、★★★★☆2030年度KPIに向けて先行して進捗、★★★☆☆2030年度KPIに向けて計画通り進捗、★★☆☆☆2030年度KPIに向けて遅れ気味

| | マテリアリティ | リスクと機会 (○機会／●リスク) | KGI (2030年のありたい姿) | 主なKPI | ターゲット | 2024年度(前中期経営計画結果) | | |
|---------|--------------------------|--|-------------------------------------|--------------------------------------|--|-------------------------------|--------------------------------|-------|
| | | | | | | ターゲット | 実績 | 自己評価 |
| 社会価値の創造 | 5 安全・安心な食の提供 | ○ 品質事故、品質クレーム減少によるコスト削減 ● 製品の品質クレーム・トラブルによるお客さまの信頼低下、収益力の低下 | 人々が安心できる食を世界中の食卓に提供している | ● 重大な品質事故**2(国内G**1) | 2030年度目標:— 2027年度目標:ゼロ件 | ゼロ件 | ゼロ件 | ★★★★☆ |
| | | | | | | | | |
| | ● 健康価値創造・持続可能性が含まれるESG評価 | 2030年度目標:ESG評価の向上 2027年度目標:— | — | — | — | | | |
| | 7 多様な人財が安心して活躍できる職場環境の構築 | ○ 性別・年齢・国籍等にとられない人財登用による社内モチベーションの向上 ● 人財開発および職場環境改善コストの発生 | 多様化が尊重された、従業員が安心して活躍できる職場環境が構築できている | ● 採用比率女性50%維持による女性従業員比(MN) | 2030年度目標:35%以上 2027年度目標:— | 採用比率女性50% | 採用比率女性50% 女性従業員比29.2% | ★★★★☆ |
| | | | | ● 女性管理職比率(MN) | 2030年度目標:15%以上 2027年度目標:— | 7.5% | 7.7% | ★★★★☆ |
| | | | | ● 人財育成プログラムにもとづく各人財プールの目標達成(MN) | 2030年度目標:各人財プールの目標数値達成 2027年度目標:各人財プールの目標数値達成 | マルハニチロ人財育成プログラム確立と2030年度目標の設定 | マルハニチロ人財育成プログラム確立と2030年度目標の設定済 | ★★★★☆ |
| | | | | ● 従業員エンゲージメントの特定項目のエンゲージメントスコア達成(MN) | 2030年度目標:特定項目のエンゲージメントスコア達成 2027年度目標:特定項目のエンゲージメントスコア達成 | 従業員エンゲージメント評価方法確立と2030年度目標の設定 | 従業員エンゲージメント評価方法確立と2030年度目標の設定済 | ★★★★☆ |

※1 対象組織を略称で記載MN=マルハニチロ㈱、国内G=国内グループ連結会社、G全体=グローバル連結会社

※2 重大な品質事故とは、GRIスタンダード416-2、および417-2にて示された関連規制および自主的規範の違反などを理由とした新聞社告または自社WEBサイトにて告知した商品回収を対象とする

※3 各製品基準の詳細はP41に記載

前中期計画から修正を加えた部分

★★★★★2030年度KPI達成済、★★★★☆2030年度KPIに向けて先行して進捗、★★★☆☆2030年度KPIに向けて計画通り進捗、★★☆☆☆2030年度KPIに向けて遅れ気味

| | マテリアリティ | リスクと機会 (○機会/●リスク) | KGI (2030年のありたい姿) | 主なKPI | ターゲット | 2024年度(前中期経営計画結果) | | |
|---------|-----------------|---|-------------------------------------|---|--|------------------------------|--|--------|
| | | | | | | ターゲット | 実績 | 自己評価 |
| 社会価値の創造 | 8 事業活動における人権の尊重 | ○ グループ内、サプライチェーン上での人権リスク低減 ● 人権問題への対応遅延による企業価値毀損 | 自社含むサプライチェーン上で人権侵害ゼロに向けた取組みを実践できている | ● 多言語対応の苦情処理メカニズムの設置と運用、および発覚した人権侵害リスクへの対応(G全体※1) | 2030年度目標:100%(G全体※1) 2027年度目標:100%(国内G※1) | 人権研修実施率100%、人権リスクマップによる課題明確化 | 人権研修実施率98.7%、人権リスクマップによる課題明確化済、外国人雇用に関するガイドラインの運用済 | ★★★★☆☆ |
| | | | | | | | | |
| | — | — | — | | | | | |

※1 対象組織を略称で記載MN=マルハニチロ㈱、国内G=国内グループ連結会社、G全体=グローバル連結会社

※2 各製品基準の詳細はP41に記載

※3 重大な品質事故とは、GRIスタンダード416-2、および417-2にて示された関連規制および自主的規範の違反などを理由とした新聞社告または自社WEBサイトに告知した商品回収を対象とする

前中期計画から修正を加えた部分

★★★★★2030年度KPI達成済、★★★★☆2030年度KPIIに向けて先行して進捗、★★★★☆2030年度KPIIに向けて計画通り進捗、★★★☆☆2030年度KPIIに向けて遅れ気味